

- 1 聖徳太子によって建立され、世界最古の木造建築物群として飛鳥文化を象徴する寺院を何という？
① 法隆寺 ② 中尊寺 ③ 四天王寺 ④ 東大寺
- 2 663年に日本軍が朝鮮半島で唐・新羅の連合軍と戦い、大敗した戦いを何という？
① 川中島の戦い ② 壇ノ浦の戦い ③ 白村江の戦い ④ 壬申の乱
- 3 聖徳太子や蘇我氏が中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？
① 国風文化 ② 飛鳥文化 ③ 鎌倉文化 ④ 天平文化
- 4 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？
① 道教 ② 神道 ③ 儒教 ④ 仏教
- 5 唐や新羅からの侵攻に備えて、九州北部の防衛のために配置された兵士を何という？
① 防人 ② 租庸調 ③ 庚午年籍 ④ 班田収授法
- 6 聖徳太子が、中国の隋から進んだ政治制度や文化を学ばせるために派遣した人物は誰？
① 阿倍仲麻呂 ② 吉備真備 ③ 小野妹子 ④ 菅原道真
- 7 聖徳太子が役人の心得として、仏教の「仏・法・僧」を敬うことを記した文書を何という？
① 大宝律令 ② 冠位十二階 ③ 大化改新の詔 ④ 十七条の憲法
- 8 法隆寺が位置しており、飛鳥文化の中心地でもあった現在の都道府県はどこ？
① 京都府 ② 奈良県 ③ 大阪府 ④ 滋賀県
- 9 聖徳太子が制定した憲法において、仏教の尊重とともに取り入れられた教えを何という？
① 儒教 ② 仏教 ③ 神道 ④ 道教
- 10 豪族中心の政治から脱却し、天皇が権力を集中させる国家体制を何という？
① 氏姓制度 ② 封建制度 ③ 中央集権 ④ 地方分権
- 11 推古天皇の時代、中国へ進んだ制度や文化を学ぶために派遣された使節を何という？
① 遣明使 ② 遣唐使 ③ 勘合貿易 ④ 遣隋使
- 12 6世紀の半ば、日本に仏教を伝えた朝鮮半島の国は？
① 新羅 ② 百済 ③ 高句麗 ④ 隋
- 13 中大兄皇子らが中心となり、豪族が支配する政治を改め、天皇中心の国家を目指した政治改革を何という？
① 応仁の乱 ② 壬申の乱 ③ 大化の改新 ④ 承久の乱
- 14 飛鳥時代、仏教の採用をめぐって蘇我氏と激しく対立した有力豪族を何という？
① 物部氏 ② 蘇我氏 ③ 葛城氏 ④ 大伴氏
- 15 日本が隋や唐の国家体制を手本にして、後に整えていった法典に基づく統治のしくみを何という？
① 班田収授法 ② 大化の改新 ③ 封建制度 ④ 律令制度
- 16 中大兄皇子と中臣鎌足に倒された、飛鳥時代に権力を握り天皇中心の政治の実現を阻んでいた豪族を何という？
① 藤原氏 ② 蘇我氏 ③ 平氏 ④ 源氏



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	法隆寺 は、聖徳太子によって建立された日本最古級の寺院です。		1 法隆寺	☐
2	日本は百済を助けるために軍を派遣しましたが、白村江（はくすきのえ）という場所で唐・新羅軍に完敗しました。		3 白村江の戦い	☐
3	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。		2 飛鳥文化	☐
4	仏教 は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。		4 仏教	☐
5	政府は国防を最優先の課題とし、九州の北部に「 防人 」を配置して警備を強化しました。		1 防人	☐
6	小野妹子 は、聖徳太子の命令を受けて遣隋使として隋の都へ派遣されました。		3 小野妹子	☐
7	604年に制定されました。		4 十七条の憲法	☐
8	奈良県 には法隆寺のほか、飛鳥寺や山田寺などの初期仏教寺院が建てられ、大陸文化の影響を受けた美術が発展しました。		2 奈良県	☐
9	儒教 は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。		1 儒教	☐
10	飛鳥時代から大化の改新を経て目指されたのが「 中央集権 」です。		3 中央集権	☐
11	607年に小野妹子らが派遣されました。		4 遣隋使	☐
12			2 百済	☐
13	645年、中大兄皇子や中臣鎌足らは、強大な権力を持っていた蘇我入鹿を倒し、天皇中心の国づくりを目指す「 大化の改新 」を開始しました。		3 大化の改新	☐
14	物部氏 は日本古来の信仰を守る立場から、蘇我氏が推し進める仏教の導入に強く反対しました。		1 物部氏	☐
15	律令制度 とは、刑罰を定めた「律」と、行政や税の決まりである「令」からなる法体系のことです。		4 律令制度	☐
16	蘇我氏 は飛鳥文化の中心的な存在でもあり、聖徳太子と協力して国の基盤を固めました。		2 蘇我氏	☐

言えなかった用語ノート